

吟剣詩苑

g i n k e n s h i h u

日本財団助成事業

令和6年度

夏季吟道大学

「笹川平和財団太平洋島嶼国ウィークス」
レセプションで吟剣詩舞を公演

吟剣詩舞の故郷

「屋島」(香川県)

表紙の詩

汪倫に贈る李白

李白舟に乗つて将に行かんと欲す

忽ち聞く岸上踏歌の声

桃花潭水深さ千尺

及ばず汪倫が我を送るの情に

9
令和6年
長月

外部識者 検討会 メンバー



齋木彩染

彩佑流 宗家、全国高校
総合文化祭参加チーム指
導者(六本木高校)



原 正隆

元NHK伝統芸能部チー
フディレクター



久米信行

株式会社久米繊維工業
取締役相談役、日本吟剣
詩舞振興会理事



大崎 洋

一般社団法人 mother
ha.ha 代表理事、吉本興
業ホールディングス株式
会社 元会長



鈴木吟亮

公益財団法人 日本吟剣
詩舞振興会理事



池内賢二

公益財団法人 日本吟剣
詩舞振興会専務理事



早淵鯉将

公益財団法人 日本吟剣
詩舞振興会副会長



徳田寿風

公益財団法人 日本吟剣
詩舞振興会副会長



沼崎 富

公益財団法人 日本吟剣
詩舞振興会会長

日本吟剣詩舞振興会

武井 涼子/フェリス女子大教授、ヤンマー取締役、日本吟剣詩舞振興会理事 ※今回は欠席

さと、吟剣詩舞に触れる場やキッカ
ケ作りの必要性を提案。
また、ネットやSNSの活用、海
外で人気のある日本の伝統芸道とし
て逆輸入することも視野に入れるべ
きとの意見も出ました。その際、伝
統芸道として「何を守り、何を変え
てもいいのかの見極めも重要」という
ことでした。
NHKの伝統芸能部で長年活躍
された原正隆さんは「地域で長年大
切にされてきた良い詩、例えば『こき
りこ節』のような歌を、詩吟で詠うの
はどうか」など、吟剣詩舞と隔たりの
ある般の人々に歩み寄ることによつ
て、親しみを感じてもらうことも必
要ではないかとのご意見。
全国高校総合文化祭に参加する
都立六本木高校の指導をしている齋
木彩染さんは「詩舞を教えているの
ですが、最初はもちろん基本を教え
ます。最低限のことをやったら、いき
なり一人の生徒に扇子を2本持たせ
てみる。すると、5人で『梅の花』がで
きます。それを体験すると楽しくなつ
て、大学生になっても詩舞を続け、本



格的に稽古をしている生徒もいます」
と、グループや仲間とひとつのことを
成し遂げる一体感や、絆が生まれるこ
との楽しさを味わってもらうことも
大切と、実体験にもとづく意見も
でした。
約1時間半におよぶ検討会は、財
団の役員の皆さまのご意見も含め、
他にもさまざまなアイデアがでました。
吟剣詩舞界の将来に二筋の光明を照
らすべく、第2回以降の検討会の成
果に大いに期待したいものです。



日本財団本部会議室にて開催された第1回外部識者検討会。手前が外部識者の先生方。向こう正面に財団側役員(左から沼崎会長、徳田副会長、早淵副会長、鈴木理事)の面々

日本財団助成事業 第1回外部識者検討会を開催

吟剣詩舞の 普及振興を考える

吟剣詩舞の愛好者の数が減りつつあることは、斯界の重要課題のひとつです。少子高齢化が進み、ライフスタイルが多様化し、世代間における考え方も変化しているなか、日本吟剣詩舞振興会では、業界内部の議論とは別に、広くさまざまな分野で活躍する外部の有識者を招き、吟剣詩舞界の将来発展につながる意見を聞く「外部識者検討会」が設置され、その第1回が開催されました。

次々と出てきた、 さまざまなアイデア

検討会は6月24日に開催された第1回を皮切りに、9月までに3回開催される予定です。そして検討の結果を分析・具体化、すぐに実施可能なものについては即実行。予算化が必要なものについては次年度の計画に盛り込むことになっています。

日本財団で開催された第1回検討会では、まず初めに鈴木吟亮理事がまとめた「吟剣詩舞界の現状」を

池内専務理事が参加者に説明しました。

それによると、今から27年前(平成7年)の財団設立30周年に調査した詩吟人口は300万人を超えていました。ところがそれから21年が経過した平成28年の調査では10万人という数字が示されました。さらにコロナ禍で人口減少が加速しており、効果的な普及振興策は緊急を要する課題となっていることを、参加者全員が認識しました。

そしてテーマを「若年層へのアプロ

チ「地域社会との連携」「教育プログラムの拡充」に絞り、自由討論という形で検討会が始まりました。

最初に口火を切ったのは地方創生や企業経営を専門として情報専門学校で教授を務め、いまの若者の動向に詳しい久米信行さん。「子ども食堂や学童保育の場で吟剣詩舞を体験してもらうことから始めたいかがでしょうか。子供たちに配られるタブレットにはコンテンツが少ないので、そこへ詩吟を取り入れたい……」

吉本興業の元会長、大崎洋さんは「吉本時代、沖縄に作った芸能を学ぶ専門学校の1階を子供食堂にして、専門学校の生徒たちが、毎日、子供たちの前で学んでいることを発表していました。また、幕張のイオンモールに作った100席程度の小劇場では、地元の職人さんや農家の人、お年寄りが先生になって、地元の子供たちが芸人さんと一緒に学ぶようにしたのですが、これが子供たちに受けました。有名な芸人ではないのですが、昨日、芸人さんと一緒に勉強した！」と家庭や学校で自慢するようになったのです」と、子供へのアプローチの大切